

1. 推進事業

事業費（要望額）	335,975,268円（うち交付金155,539,000円）	都県名	福島県
		事業実施年度	平成27年度

現状と課題（※計画地区等における現状を踏まえて、課題を数値等も交えて具体的に記述すること。）
 東日本大震災及びそれに伴う津波により、農業関係施設では199件、農地では5,991ha、その他多数の農業用機械等に被害が出た。
 また、東京電力福島第一原子力発電所の事故に伴う放射性物質の飛散により、農用地においては最大28,957Bq/kg（Cs134+137）の土壌汚染が確認され、営農再開が困難だけでなく、農産物の販売に多大な支障が生じている。畜産分野においては、牧草の生産が減少しているうえ、通常の方法での除染が困難な状況にある。

課題を解決するため対応方針（※上記の課題に対応させて記述すること。）
 畜産分野においては、安全・安心な自給飼料を生産するために必要な農業用機械の導入を支援する。

都県における目標関係						備考	
取組名	成果目標	事業実施後の状況			達成率		成果目標の具体的な実績
		計画時	実施後	目標			
自給飼料生産・調整再編支援	自給飼料作物の生産面積を拡大するとともに、自給飼料の増産を図る。	東京電力福島第一原子力発電所事故により、安全な飼料を栽培するための農地が減少したうえ、牧草の給与制限が行われている。	放射性物質の移行率が低い飼料作物への転換や、収穫作業の高度化を図り、自給飼料の生産面積を拡大した。	放射性物質の移行率が低い飼料作物への転換や、収穫作業の高度化を図り、自給飼料の生産面積を拡大する。	130.1%	達成（100%以上） 14地区 概ね達成（90%以上、100%未満） 3地区 未達（90%未満） 4地区 計 21地区	

事業実施地区数	総合所見
21地区	<p>県全体の成果目標の達成状況は、取組名「自給飼料生産・調整再編支援」では、各地区（事業）の平均達成率が100%以上であるため「達成」と評価する。</p> <p>各地区の達成状況は、21地区中「達成」「概ね達成」が17地区であった。</p> <p>なお、「未達」地区については、関係機関との連携の支援や、広域での需給調整、周辺環境の整備を支援することで、作付面積拡大を図る。また、「達成」「概ね達成」地区については今後も作付面積の維持、拡大のため、引き続き機械や飼料生産管理について助言し、営農活動の回復を支援する。</p>

(注) 1 別紙様式1号に準じて作成すること。
 2 「総合所見」欄については、評価実施年度の取組について、都県全体の総合所見を記入すること。

(別紙様式2号 別添)

都県内における推進事業取組実施状況一覧表

取組名	事業実施主体名	計画策定時	事業実施後(目標年度)		目標(平成30年度)		事業費(円)	負担区分(円)				目標達成状況 B/A×100	事業主体等による評価結果	都県による点検評価結果(所見)
		被災前 22年度	実績値	事業実績	目標値	具体的な事業内容 (計画)		交付金	都県費	市町村費	その他			
自給飼料生産・調製再編支援事業	あぶくま粗飼料生産組合	平成22年度 永年生牧草 20ha 単年 生牧草3.5ha	平成30年度 永年生牧草21ha 単年生牧草5.5ha	ロールベ ラー 1台	平成30年度 永年生牧草 23ha 単年 生牧草10ha	ロールベ ラー 1 台	5,022,000	2,325,000	1,511,000	0	1,186,000	80.3%	未達の要因としては、①地権者の反対により、除染ができず利用が出来ない牧草地がある。②周辺の耕作放棄地が荒れており、自力では開墾が困難なため規模拡大が難しかった。令和元年度の作付面積は、市や普及所と連携して農地利用の情報共有を図った結果、永年生牧草23.6ha単年生牧草8haであり、達成率95.8%であり概ね達成している。今後は、安全な粗飼料の生産に努力するとともに、耕作予定がない畑を借り受け、牧草の栽培を拡大し、粗飼料の自給率向上を図る予定である。	牧草は今後も地域の推進作物として位置づけ、畜産農家と関係機関と農地利用の情報を共有することで作付面積を拡大する。 令和元年は概ね目標を達成することができたことから、令和2年には目標の達成を目指す。
自給飼料生産・調製再編支援	福島西WCS機械利用組合	平成22年度 WCS用稲 4.3ha	平成30年度 WCS用稲 14.2ha	稲WCS専用 収穫機 1台 ラッピングマ シン 1台 積込機 1台	平成30年度 WCS用稲 20.5ha	稲WCS専用収穫機 1台 ラッピングマシン 1台 積込機 1台	15,869,520	7,347,000	4,775,000	0	3,747,520	69.3%	H30年度の目標達成に向け事業に取り組んできたが、組合員だけの周知活動では周辺農家のWCS用稲作付取組が思うように浸透せず、目標面積を達成できなかった。行政・JAの支援や説明会開催等に伴う地元での取組の認知度向上により、稲作農家の取組みが増加し、R元年度は目標達成の見込みである。(約24ha)今後も、稲作農家との連携を密にすると共に、引き続き生産指導会の開催等を行っていくことで高品質な飼料生産を目指したい。	作付面積は14.2haであり、目標が達成されなかった。当該年度においては、WCS用稲作付取組が浸透しなかったことが要因であったが、作付面積拡大にむけた推進支援により、R元年度においては目標面積を上回る見込みである。今後も作付面積の維持、拡大のため、引き続き取組を推進し、栽培指導等に取り組むことで継続的に支援する。

(別紙様式2号 別添)

都県内における推進事業取組実施状況一覧表

取組名	事業実施主体名	計画策定時	事業実施後(目標年度)		目標(平成30年度)		事業費(円)	負担区分(円)				目標達成状況 B/A×100	事業主体等による評価結果	都県による点検評価結果(所見)
		被災前 22年度	実績値	事業実績	目標値	具体的な事業内容 (計画)		交付金	都県費	市町村費	その他			
自給飼料生産・調製再編支援	渋川第1機械利用組合	WCS用稲0ha 飼料用トウモロコシ2ha	WCS用稲18ha 飼料用トウモロコシ2.5ha	汎用型飼料収穫機1台	WCS用稲15ha 飼料用トウモロコシ5ha	汎用型飼料収穫機1台	17,604,000	8,150,000	5,297,000	0	4,157,000	102.5%	全体として目標を達成できた。 WCS用稲については耕種農家と畜産農家との連携が図られ、目標とされていた面積より拡大した。 一方、飼料用トウモロコシにおいては、供給先となる畜産農家の減少により飼料用トウモロコシ利用が少なくなり作付面積が伸びず、目標の面積までは到達できなかった。 市や関係機関と連携して遊休農地の情報を共有し、WCS用稲等の利用の集積拡大を図り、自給飼料増産を行う。	作付面積は20.5haとなり、目標が達成された。今後も作付面積の維持、拡大のため、引き続き安定的な自給飼料生産を推進し、継続的に支援する。
自給飼料生産・調製再編支援	安達太良飼料生産受託組合	WCS用稲23.2ha 永年生牧草90ha	WCS用稲30ha 永年生牧草120ha	稲WCS専用収穫機1台 ラッピングマシン2台 積込機2台	WCS用稲30ha 永年生牧草117ha	稲WCS専用収穫機1台 ラッピングマシン2台 積込機2台	33,555,600	15,535,000	10,097,000	0	7,923,600	102.0%	目標まで達成できた。今後も整備した機械の適正な管理をするとともにWCS用稲の面積拡大と草地利用の集積を図り、自給飼料増産を行う。	作付面積は150haとなり、目標が達成された。今後も作付面積の維持、拡大のため、引き続き安定的な自給飼料生産を推進し、営農活動の回復を支援する。
自給飼料生産・調製再編支援	安達中央機械利用組合	永年生牧草21ha	永年生牧草26ha	ロールベアラー1台 積込機1台	永年生牧草25ha	ロールベアラー1台 積込機1台	15,768,000	7,300,000	4,745,000	0	3,723,000	104.0%	目標まで達成できた。引き続き関係機関と連携し遊休農地の情報共有を図り、草地利用の集積を拡大させることで自給飼料増産を行う。	作付面積は26haとなり、目標が達成された。今後も作付面積の維持、拡大のため、引き続き安定的な自給飼料生産を推進し、営農活動の回復を支援する。

(別紙様式2号 別添)

都県内における推進事業取組実施状況一覧表

取組名	事業実施主体名	計画策定時	事業実施後(目標年度)		目標(平成30年度)		事業費(円)	負担区分(円)				目標達成状況 B/A×100	事業主体等による評価結果	都県による点検評価結果(所見)
		被災前 22年度	実績値	事業実績	目標値	具体的な事業内容 (計画)		交付金	都県費	市町村費	その他			
自給飼料生産・調製再編支援	岩代自給飼料生産組合	WCS用稲 2ha 永年生牧草 5ha 飼料用トウモロコシ 2.5ha	WCS用稲 8ha 永年生牧草 10ha 飼料用トウモロコシ 3ha	ロールベアラー 1台 ラッピングマシン 1台 ロータリーテッダ 1台 マニュアルスプレッダ 1台 積込機 2台	WCS用稲 8ha 永年生牧草 8ha 飼料用トウモロコシ 5ha	ロールベアラー 1台 ラッピングマシン 1台 ロータリーテッダ 1台 マニュアルスプレッダ 1台 積込機 2台	15,120,000	7,000,000	4,550,000	0	3,570,000	100.0%	<p>全体としては目標まで達成できた。WCS用稲について、耕種農家と畜産農家との連携が図られ、作付農家の増加や利用集積が進み目標面積を達成できた。</p> <p>牧草は、廃業となった畜産農家の農地の利用集積が進み、目標より面積が拡大した。</p> <p>一方、飼料用トウモロコシにおいては、畜産農家の減少により飼料用トウモロコシ利用が少なく作付面積が伸びず、目標の面積までは到達できなかった。</p> <p>今後は、機関と連携し、遊休農地の情報を共有することで草地等の利用の集積拡大を図り、自給飼料増産を行う。</p>	作付面積は21haとなり、目標が達成された。今後も作付面積の維持、拡大のため、引き続き安定的な自給飼料生産を推進し、営農活動の回復を支援する。
自給飼料生産・調製再編支援	上長折自給飼料生産組合	WCS用稲 1ha 飼料用トウモロコシ 1ha 永年生牧草 15ha	WCS用稲 2.2ha 飼料用トウモロコシ 1.2ha 永年生牧草 21ha	積込機 1台	WCS用稲 2ha 飼料用トウモロコシ 2ha 永年生牧草 20ha	積込機 1台	5,292,000	2,450,000	1,592,000	0	1,250,000	101.7%	<p>全体としては目標まで達成できた。WCS用稲については、作付面積を拡大し、利用集積も進み目標としていた面積を達成できた。</p> <p>飼料用トウモロコシにおいては、供給先となる畜産農家の需要が少なく面積が伸ばせず、目標の面積までは到達できなかった。</p> <p>牧草は、地域の畜産農家と連携を図り利用集積ができ、目標を上回ることができた。</p> <p>引き続き、関係機関と連携して草地等の利用の集積を図り、自給飼料増産に取り組む。</p>	作付面積は24.4haとなり、目標が達成された。今後も作付面積の維持、拡大のため、引き続き安定的な自給飼料生産を推進し、営農活動の回復を支援する。

(別紙様式2号 別添)

都県内における推進事業取組実施状況一覧表

取組名	事業実施主体名	計画策定時	事業実施後(目標年度)		目標(平成30年度)		事業費(円)	負担区分(円)				目標達成状況 B/A×100	事業主体等による評価結果	都県による点検評価結果(所見)
		被災前 22年度	実績値	事業実績	目標値	具体的な事業内容 (計画)		交付金	都県費	市町村費	その他			
自給飼料生産・調製再編支援	福島さくら農業協同組合	WCS用稲 6.9ha	WCS用稲 18.8ha	稲WCS専用収穫機 1台 ラッピングマシン 1台	WCS用稲 20ha	稲WCS専用収穫機 1台 ラッピングマシン 1台	15,315,480	7,090,000	4,609,000	0	3,616,480	94.0%	面積の合計は18.8haとなり、目標は概ね達成することができた。しかし、WCS用稲の作付面積と収穫機械の利用計画とのマッチングがうまくいかなかったため、目標面積までの稼働には至らなかった。組合員以外のWCS用稲需要者に対しても幅広く供給先の確保に努めてきたことにより、令和2年度には達成できる見込み。	作付面積は18.8haとなり目標は概ね達成されたが、目標達成には至らなかった。今後は春先の作付面積の確認、収穫適期の把握と機械稼働のスケジュールを徹底し、引き続き当初目標の達成を図る。
自給飼料生産・調製再編支援	夢みなみ農業協同組合	平成22年度 WCS用稲 0ha	平成30年度 WCS用稲 26ha	稲WCS専用収穫機 1台 ラッピングマシン 1台 積込機 2台	平成30年度 WCS用稲 16ha	稲WCS専用収穫機 1台 ラッピングマシン 1台 積込機 2台	18,260,640	8,454,000	5,495,000		4,311,640	162.5%	機械導入の適期刈取りによる良質飼料供給により農家申込面積の増加を図った。今後は作付農家増による面積拡大を図るべく推進していく。	作付面積は26haとなり目標は達成された。今後も飼料生産面積維持拡大のため、飼料生産・調製方法の助言や委託農家の開拓について支援し、飼料生産供給の継続を支援する。
自給飼料生産・調整再編支援	鏡石北部飼料作物生産組合	(平成22年度) 単年生牧草 8ha 飼料用 トウモロコシ 2ha	(平成30年度) 単年生牧草 10ha 飼料用 トウモロコシ 9.5ha	ロールベアラ 1台 飼料運搬機 1台 パワーハロー 1台	(平成30年度) 単年生牧草 11ha 飼料用 トウモロコシ 9ha	ロールベアラ 1台 飼料運搬機 1台 パワーハロー 1台	5,961,600	2,760,000	1,794,000	0	1,407,600	97.5%	面積の合計は19.5haとなり、目標は概ね達成された。WCS用稲収穫受託面積も含めると、飼料収穫面積は27.5haとなり、自給飼料生産向上に寄与した。令和元年度も同様の面積である。今後も関係機関と連携し、作業面積の拡大に取り組む。	作付面積は19.5haとなり、目標は概ね達成された。今後も適期作業が可能となるよう飼料作物の早晚生品種の選定や作業体系の見直しについて助言し、生産基盤の維持拡大を支援する。
自給飼料生産・調整再編支援	天栄肉牛生産組合	(平成22年度) 稲わら 25ha	(平成30年度) 稲わら 40ha	ロールベアラ 1台 ラッピングマシン 1台	(平成30年度) 稲わら 40ha	ロールベアラ 1台 ラッピングマシン 1台	7,248,204	3,355,000	2,181,000	0	1,712,204	100.0%	飼料生産調製機械の導入により、震災前以上に生産面積が拡大し、目標が達成された。今後も生産面積の維持、拡大を図り、引き続き営農活動を行う。	作付面積は40haとなり、目標が達成された。今後は生産面積の維持、拡大のため、引き続き稲わらの取引相場に関する情報提供や、取組意向のある耕種農家・畜産農家の情報提供を行い、営農活動の回復を支援する。

(別紙様式2号 別添)

都県内における推進事業取組実施状況一覧表

取組名	事業実施主体名	計画策定時	事業実施後(目標年度)		目標(平成30年度)		事業費(円)	負担区分(円)				目標達成状況 B/A×100	事業主体等による評価結果	都県による点検評価結果(所見)
		被災前 22年度	実績値	事業実績	目標値	具体的な事業内容 (計画)		交付金	都県費	市町村費	その他			
自給飼料生産・調製再編支援	夢みなみ農業協同組合	(平成22年度) WCS用稲 0.6ha	(平成30年度) WCS用稲 35.0ha	稲WCS専用収穫機1台 ラッピングマシン1台	(平成30年度) WCS用稲 16ha	稲WCS専用収穫機1台 ラッピングマシン1台	12,582,000	5,825,000	3,786,000	0	2,971,000	218.8%	石川地方農業再生協議会において、WCS用稲の生産・流通・販売の指導及び確認を実施し、また生産組織であるWCS用稲生産部会の実績検討会を行うなど、自給飼料生産の拡大を図ることができた。	作付面積は35haとなり、目標は達成された。今後も作付面積の維持、拡大のため、作業受託料金の見直しや、稼働率の高すぎる機械のメンテナンスや維持・更新費用について助言し、生産・流通基盤の回復を支援する。
自給飼料生産・調製再編支援	㈱あぐりネット福島	(平成22年度) 稲WCS 0ha	(平成30年度) 稲WCS 31 ha	・稲WCS専用収穫機1台 ・ラッピングマシン1台 ・積込機1台	(平成30年度) 稲WCS 16ha	・稲WCS専用収穫機1台 ・ラッピングマシン1台 ・積込機1台	16,273,008	7,533,000	4,897,000	0	3,843,008	193.8%	WCS用稲の作付面積は31haと目標数値より高く、達成することができている。	作付面積は31haとなり、目標が達成された。今後、主食用米への揺り戻しの影響が懸念される中で、作付面積の維持、拡大のため、引き続き品質向上に向けた収穫・調製方法について指導し、自給飼料生産基盤の回復を支援する。
自給飼料生産・調製再編支援事業	東西しらかわ農業協同組合	(平成22年度) 飼料用トウモロコシ 0ha WCS用稲 0ha	(平成30年度) 飼料用トウモロコシ 20.3ha WCS用稲 57.1ha	汎用型不耕起播種機 1台 汎用型飼料収穫機 1台 ラッピングマシン 1台 積込機 1台	(平成30年度) 飼料用トウモロコシ 15ha WCS用稲 5ha	汎用型不耕起播種機 1台 汎用型飼料収穫機 1台 ラッピングマシン 1台 積込機 1台	29,560,740	13,685,000	8,895,000	0	6,980,740	387.0%	作付面積は飼料用トウモロコシで20.3ha、WCS用稲で、57.1haとなり、目標が達成された。今後も作付面積の維持、拡大のため、引き続き機械の適正管理に努め、営農活動の回復を図る。	作付面積は計77.4haとなり、目標が達成された。今後も作付面積の維持、拡大のため、引き続き機械の適正管理について助言し、営農活動の回復を支援する。
自給飼料生産・調整再編支援事業	グリーンクローブ生産組合	(平成22年度) 牧草0ha 飼料用トウモロコシ0ha WCS用稲0ha 稲わら0ha	(平成30年度) 牧草1.11ha 飼料用トウモロコシ13.74ha WCS用稲15.73ha 稲わら4.4ha	汎用型飼料収穫機 1台 ラッピングマシン 1台 積込機 2台 飼料運搬機 1台 トウモロコシ播種用鎮圧機 1台 マニュアルスプレッダ 1台 ローラー 1台 ロータリーテッダ 1台 スタブルカルチ 1台 ロータリー 1台	(平成30年度) 牧草5ha 飼料用トウモロコシ8ha WCS用稲15ha 稲わら7ha	汎用型飼料収穫機 1台 ラッピングマシン 1台 積込機 2台 飼料運搬機 1台 トウモロコシ播種用鎮圧機 1台 マニュアルスプレッダ 1台 ローラー 1台 ロータリーテッダ 1台 スタブルカルチ 1台 ロータリー 1台	43,626,600	20,197,000	13,128,000	0	10,301,600	99.9%	作付面積は34.98haとなり、目標は概ね達成された。今後も作付面積の維持、拡大のため、引き続き営農活動の回復を図っていく。	作付面積は34.98haとなり、目標は概ね達成された。今後も作付面積の維持、拡大のため、引き続き機械の適正管理について助言し、営農活動の回復を支援する。

(別紙様式2号 別添)

都県内における推進事業取組実施状況一覧表

取組名	事業実施主体名	計画策定時	事業実施後(目標年度)		目標(平成30年度)		事業費(円)	負担区分(円)				目標達成状況 B/A×100	事業主体等による評価結果	都県による点検評価結果(所見)
		被災前 22年度	実績値	事業実績	目標値	具体的な事業内容 (計画)		交付金	都県費	市町村費	その他			
自給飼料生産・調整再編支援事業	株式会社阿部牧場	(平成22年度) 飼料用トウモロコシ2.8ha ソルゴー0ha	(平成30年度) 飼料用トウモロコシ21.6ha ソルゴー0ha	飼料用播種機1台 積込機 1台	(平成30年度) 飼料用トウモロコシ15ha ソルゴー5ha	飼料用播種機 1台 積込機 1台	9,695,592	4,488,000	2,918,000	0	2,289,592	108.0%	作付面積は21.6haとなり、目標が達成された。 播種時期が重なり、作業効率を優先したため、ソルゴーを作付せず、飼料用等トウモロコシの面積の拡大に取り組んだ。鳥獣被害が増加しているところから、令和3年度までにソルゴー作付面積5haを目標としていく。今後も作付面積の維持のため引き続き営農活動の回復を図る。	作付面積は21.6haとなり、目標が達成された。今後も作付面積の維持、拡大のため、引き続き機械の適正管理について助言し、営農活動の回復を支援する。
自給飼料生産・調整再編支援事業	有限会社西の郷産業	(平成22年度) WCS用稲0ha 飼料用トウモロコシ0ha	(平成30年度) WCS用稲0ha 飼料用トウモロコシ20.23ha	汎用型飼料収穫機 1台 ラッピングマシン 1台	(平成30年度) WCS用稲5ha 飼料用トウモロコシ20ha	汎用型飼料収穫機 1台 ラッピングマシン 1台	21,794,400	10,090,000	6,558,000		5,146,400	80.9%	作付面積は20.23haとなり、目標が達成できなかった。 WCS作付面積と収穫機の利用計画とのマッチングがうまくいかなかったこと及び平成30年春先の大雨により水はけが悪く導入機械での収穫作業が困難であると判断し、作付けしなかった圃場があったことにより、未達となっている。 なお、平成31年においても、春先は平年並みの降水量であったものの、圃場の水はけが悪く作付けができなかった。 今後は、水はけに問題の無い稲WCS圃場の確保に努め、作付面積5haの達成に向けて取り組む。また、飼料用トウモロコシ作付面積の拡大を図り、目標達成に向けて活動する。	作付面積は20.23haとなり、目標が達成できなかった。平成30年春先の気象条件悪化により、作付けを見送らざるを得なかったことが目標未達成の要因であると考えられたが、翌年においても圃場の水はけが悪く作付けを見送らざるを得なかった。 今後は、水はけに問題の無い圃場の確保に向けて、情報提供等を行う。また、飼料用トウモロコシの作付面積の拡大に向けて、機械の適正管理について指導、助言し、目標達成に向けて支援する。
自給飼料生産・調整再編支援	鍋内ライスセンター機械利用組合	(平成22年度) 稲わら0ha	(平成30年度) 稲わら 29ha	ロールベアラー 1台 積込機 1台	(平成30年度) 稲わら 22ha	ロールベアラー 1台 積込機 1台	4,276,044	1,979,000	1,287,000	0	1,010,044	131.8%	目標を7haほど超過して達成した。今後も稲わらの取組面積を増やしていく。	作付面積は29haとなり、目標が達成された。今後も作付面積の維持、拡大のため、引き続き機械の適正管理について助言し、営農活動の回復を支援する。
自給飼料生産・調整再編支援	株式会社あさひファーム	(平成22年度) 稲わらサイレージ0ha	(平成30年度) 稲わらサイレージ52.8ha	ロールベアラー 1台 ラッピングマシン 1台 マニュアルスプレッタ 1台	(平成30年度) 稲わらサイレージ25ha	ロールベアラー 1台 ラッピングマシン 1台 マニュアルスプレッタ 1台	19,230,000	8,902,000	5,787,000	0	4,541,000	211.2%	目標面積を大きく上回る作業が実施できた。稲わらサイレージの需要が多いが、圃場条件等が良い状態ではないので、関係機関と連携して農地利用の情報共有を図ることで作業面積拡大に向けて取り組む。	作付面積は52.8haとなり、目標が達成された。今後も作付け面積の維持、拡大のため、引き続き機械の適正管理について助言し、営農活動の回復を支援する。

(別紙様式2号 別添)

都県内における推進事業取組実施状況一覧表

取組名	事業実施主体名	計画策定時	事業実施後(目標年度)		目標(平成30年度)		事業費(円)	負担区分(円)				目標達成状況 B/A×100	事業主体等による評価結果	都県による点検評価結果(所見)
		被災前 22年度	実績値	事業実績	目標値	具体的な事業内容 (計画)		交付金	都県費	市町村費	その他			
自給飼料生産・調整再編支援	中政所 WCS組合	(平成22年度) WCS用稲 0ha	(平成30年度) WCS用稲 13.9ha	稲WCS専用収穫機 1台 ラッピングマシン 1台 積込機 1台 飼料運搬機 1台	(平成30年度) WCS用稲 16ha	稲WCS専用収穫機 1台 ラッピングマシン 1台 積込機 1台 飼料運搬機 1台	16,737,840	7,749,000	5,036,000	0	3,952,840	86.9%	本事業を活用して導入した専用収穫機等により、生産体制が整い、13.9haの生産が出来るようになった。しかし、近隣畜産農家への供給について、三島町の酪農家へ販売を行うなど生産拡大に向け取組んでいたが、近隣畜産農家の経営規模縮小や離農等により需要が伸びず、目標の数値に届かなかった。 なお、令和元年度の達成状況についてはH30とほぼ同じ見込み。今後、作付面積及び需要確保を関係機関と連携して情報共有に取り組む。今後については、令和2年度から近隣市町村の生産組合等と連携して需要拡大を図り、需要の増大につなげることで目標を達成に取り組む。	作付面積は13.9haであり、目標が達成されなかった。近隣市町村の畜産農家におけるWCS用稲の需要情報の提供、良質なWCS用稲生産に向けた技術支援を行うなど生産拡大に向けた支援を継続してきたが、近隣畜産農家の経営規模縮小や離農および近隣市町村においてもWCS用稲の生産体制が整ったことにより需要が伸びなかったことが要因である。 今後は関係機関と連携し、当該地域だけでなく、広域での需給調整について指導・助言を実施し、令和2年度目途の目標達成に向け支援する。
自給飼料生産・調整再編支援	玉野・椎木飼料生産組合	永年生牧草 15ha	永年生牧草 24ha	ロールベラー 1台 ラッピングマシン 1台	永年生牧草 24ha	ロールベラー 1台 ラッピングマシン 1台	7,182,000	3,325,000	2,161,000	0	1,696,000	100.0%	平成30年度は24ha作付し、目標達成率は100%と成果目標を達成することができた。今後は当該地区の酪農家との連携を深め、自給飼料生産面積をさらに拡大させていく。	作付面積は24haとなり、目標が達成された。今後も作付面積の維持、拡大のため、引き続き飼料生産管理について助言し、営農活動の回復を支援する。
-	-			-		-	335,975,268	155,539,000	101,099,000	0	79,337,268	-	-	-

(注) 1 別紙様式1号の別添1に準じて作成すること。

2 「都県による点検評価結果(所見)」には、都県としての事業実施主体ごとの目標達成状況に関する評価を記載するとともに、目標未達成の場合には改善措置の指導の必要の有無を含めた今後の改善指導方策を記載する。